

特集「スマートな社会を実現するコンピュータセキュリティ技術」の編集にあたって

鳥居 悟^{1,a)}

機器や装置が賢くなり、細かいところまで配慮が行き届いた機能が実現され、大量に集約された事例情報から、その場に応じた適切な判断が素早くできるようになる。そのような社会が実現されようとしている。たとえば、スマートフォンやソーシャルネットワークの普及にともない、様々な情報がいつでも入手でき、だれでも情報を提供することが可能になっている。さらには、これらの情報を基にして適切な助言を受けられることも可能である。様々な情報を活用することで、交通渋滞、高齢化社会、食の安全、環境汚染など複雑化する社会問題の解決が期待されている。このような社会の実現には情報処理技術は欠かせない。

一方で、このようなインテリジェントでスマートな社会を実現するうえで、コンピュータセキュリティ技術は欠かせないものである。なぜならば、機器や装置の脆弱性を悪用する、不正な大量リクエストでサービスを妨害する、格納されている情報を改ざん・漏えいする、など対処すべき様々な脅威も想定されている。これらの脅威を軽減・回避することが強く求められており、コンピュータセキュリティ技術が、その重要な役割を担うものと考えている。

そこで本特集号では、スマートな社会というファクトを強く意識しつつ、基礎となる理論・技術、プロトコル、アーキテクチャ、ソフトウェアシステムの研究、およびそのアプリケーション、実装例、管理運用、さらには社会科学的考察をも含め、コンピュータセキュリティ技術全般に関する研究論文を掲載することを目的とした。

48件の論文が投稿され、取り下げ2件を除く46件から最終的に22件を採録した。さらに1件の招待論文を寄稿いただいた。米国のサイバーセキュリティ大規模実験環境(テストベッド)である DETER のプロジェクトを牽引されている Terry Benzel 先生 (University of Southern California, USA) に、当該プロジェクトの意義や研究例をご紹介いただいている。コンピュータセキュリティ (CSEC) 研究会では、マルウェア対策研究人材育成ワークショップ (MWS)

を開催し、テストベッド等で得られた共通データセットによるマルウェア対策研究の活性化に取り組んでいる。この招待論文を契機として、CSEC 研究会や MWS の世界的な発展に寄与できれば幸いである。

最後に、限られた時間の中で、多様な論文の査読を行い、予定通り出版にこぎつけることができたのは、査読者や編集委員、学会関係者の皆様方の多大なるご尽力によるものであり、この場を借りて厚く御礼を申し上げたい。特に、千田浩司幹事 (NTT)、吉岡克成幹事 (横浜国立大学) には、取りまとめの中心となり微細にわたって運営にご献身いただいた。心からの感謝を送りたい。

「スマートな社会を実現するコンピュータセキュリティ技術」特集号編集委員会

- 編集長
鳥居 悟 (富士通研究所)
- 幹事
千田浩司 (NTT)、吉岡克成 (横浜国立大学)
- 編集委員 (五十音順)
岩村恵市 (東京理科大学)、越前 功 (国立情報学研究所)、衛藤将史 (NICT)、大東俊博 (広島大学)、岡本栄司 (筑波大学)、加藤岳久 (東芝ソリューション)、菊池浩明 (東海大学)、齋藤孝道 (明治大学)、佐々木良一 (東京電機大学)、四方順司 (横浜国立大学)、須賀祐治 (IJ)、高木 剛 (九州大学)、竹森敬祐 (KDDI 研究所)、田中 清 (信州大学)、手塚 悟 (東京工科大学)、寺田真敏 (日立製作所)、寺田雅之 (NTT ドコモ)、土井 洋 (情報セキュリティ大学院大学)、中西透 (岡山大学)、西垣正勝 (静岡大学)、朴 美娘 (神奈川工科大学)、藤川真樹 (総合警備保障)、藤原康宏 (兵庫医科大学)、本郷節之 (北海道工業大学)、松浦幹太 (東京大学)、満保雅浩 (金沢大学)、宮地充子 (北陸先端大学)、村山優子 (岩手県立大学)、毛利公一 (立命館大学)、盛合志帆 (NICT)、山内利宏 (岡山大学)、吉浦 裕 (電気通信大学)、渡邊裕治 (日本 IBM)

¹ 株式会社富士通研究所
Fujitsu Laboratories Ltd., Kawasaki, Kanagawa 211-8588, Japan

^{a)} pro104@labs.fujitsu.com